

京都府内の牛から

流行性出血病ウイルス6型が確認されました

- 本年10月から11月にかけて、府内飼養牛から流行性出血病ウイルス（EHDV）6型が検出されました。
- EHDV6型は、九州地方で感染が広く確認されています。
※ EHDVには7つの血清型が知られており、イバラキウイルスはEHDV2型に分類されています。

流行性出血病ウイルス（EHDV）6型

【症状】

- ◇ イバラキ病類似の嚥下障害や流死産との関連が疑われている

【感染経路】

- ◇ ヌカカ等の吸血昆虫が媒介（牛から牛への接触感染なし）

【対策】

- ◇ 効果のある治療法はない（対症療法のみ）
- ◇ ワクチン：EHDV6型を対象としたワクチンの市販はない
 - ・ イバラキウイルス（EHDV2型）に対するワクチンがEHDV6型に有効との報告はない
- ◇ ヌカカ等の吸血昆虫防除
 - ・ 牛舎周辺の草刈りや水たまりをなくし、清潔で乾燥した牛舎環境に保つ
 - ・ 送風ファン等で気流を作る
 - ・ 虫よけ効果のあるプアオン剤やイヤータグを使用する



参考：嚥下障害による流涎（イバラキ病）

- 温暖化や交通網の発達と人的・物的交流の活性化等により、吸血昆虫が媒介するウイルスの感染域拡大が危惧されています。
- 感染予防のため、吸血昆虫防除等の対策を行いましょう。
- 異常を認めた場合は、下記まで連絡して下さい。